

インドネシアでの一連の防災会議に参加しました(2011/10/25-28)

10月25日から28日に、防災に関するワークショップがインドネシアのジャカルタおよびパダン市で開催され、当センターからは今村文彦教授とAbdul Muhari博士課程3年生が参加し、東日本震災での被害の実態や教訓を紹介しながら、日本・インドネシアで協働して実施できる防災・減災対策について、議論してきました。これらの一連の会議は、JST-JICA プロジェクト（地球規模課題対応国際科学技術協力）中の「インドネシアにおける地震火山の総合防災策」（代表、東大地震研佐竹健治教授）による活動です。

25日は、インドネシア海洋水産省と協力しマングローブなどの植生の防災への利用について、26日は、地元アンダラス大学と協力し、パダン市での地震・津波の減災や避難計画、さらにはNGOと共に展開する啓発活動について、27日からは、JST-JICA プロジェクト全体会議で、地震動、液状化、津波などの複合災害への対応（マルチ・ハザードマップ）などについて議論をしました。これらの会後の様子は、地元ジャカルタ新聞（26日朝刊）、ISSUU誌（26日朝刊）、パダン市テレビ局などで紹介されました。



ワークショップで登壇する今村教授と議長席のFebrin アンダラス大学学長



ワークショップの会場の様子（登壇席で質問に答える Abdul 博士課程，最左側）